

聖書日課 『からし種』 2023.8.13-8.20

<p>8月13日 (日)</p>	<p>「ミカヤは『主は生きておられる。わたしの神が言われる事をわたしは告げる』と言って、王のもとに来た」(13-14節)。 家臣も預言者も皆が王のご機嫌取りに終始していた時に、ミカヤだけは主の言葉に従った。そのためミカヤは逮捕されてしまうが、直後に主は自らの言葉の正しさを証明されたのだった。ミカヤの信仰をもって今日、主に従うことができるように。</p>
<p>Ⅱ 歴代 18章</p>	
<p>14日 (月)</p>	<p>「彼(ヨシャファト)は裁判官に言った。『人のためではなく、主のために裁くのだから、自分が何をすべきか、よく考えなさい』」(6節)。「人が人を裁くこと」はいかに難しいことだろうか。主の知恵を求め、主が働いてくださることを祈ることなしに、裁判官の職務を担うことはできない。私たちも、自分に働きを託してくださった方の御心を求めて、今日の仕事を始めたい。</p>
<p>Ⅱ 歴代 19章</p>	
<p>15日 (火)</p>	<p>「彼(ヨシャファト)は民と協議したうえで…主の聖なる輝きをたたえる者たちを任命し、彼らに軍隊の先頭を進ませ、こう言わせた。『主に感謝せよ、その慈しみはとこしえに』」(21節)。ヨシャファト王は「主を賛美する者たち」を軍隊の先頭に立てた。武力による「戦争」ではありえないことである。しかしヨシャファトはこの闘いを「信仰の闘い」として受けたのだった。</p>
<p>Ⅱ 歴代 20章</p>	
<p>16日 (水)</p>	<p>「その後、主は彼(ヨラム)の腹を不治の病で打たれた」(18節)。ヨラムは父から王位と莫大な富を受け継ぎながら、神を畏れる信仰を受けることはせず、兄弟たちを剣にかけて自らの王位を強固にしようとしたが、その王位はわずか8年で終焉を迎えた。人は自分の命を決めることはできない。今日、わたしを生かしてくださる方の前に祈ることから始められるように。</p>
<p>Ⅱ 歴代 21章</p>	

聖書日課 『からし種』 2023.8.13-8.20

<p>17日 (木)</p> <p>Ⅱ 歴代 22章</p>	<p>「イエフは、アハブの家を絶つために主が油を注がれた者である」(7節)。主の選びは自由自在である。「起こす」ために用いられる者があれば、「断つ」ために用いられる者もいる。人の目に「大きなもの」を用いられることもあれば、「小さなもの」を用いられることもある。他者を自分の「ものさし」で裁くのではなく、主の選びに信頼することを学ぶことができるように。</p>
<p>18日 (金)</p> <p>Ⅱ 歴代 23章</p>	<p>「ヨヤダは彼らに言った。『見よ、王の子を。主がダビデの子孫について言われた言葉に従って、彼が王となる』」(3節)。当時、王位をめぐる争いは自らの家系を守るための争いであり、多くの血が流された。その中で祭司ヨヤダは「主の言葉」の重みを受け止め、忠実であろうとした。今日、わたしは「主が語られる言葉」を聴くことができているだろうか。</p>
<p>19日 (土)</p> <p>Ⅱ 歴代 24章</p>	<p>「彼らを主に立ち帰らせるため、預言者が次々と遣わされた。しかし、彼らは戒められても耳を貸さなかった」(19節)。主イエスの「ぶどう園と農夫のたとえ」(マルコ 12 章)を思い出す。農夫たちは主人の姿が見えなくなると、すぐに傍若無人に振舞い始める。私たちはどうだろうか。主日礼拝のあと礼拝堂を出ても、自分が何者であるかを忘れることがないように。</p>
<p>20日 (日)</p> <p>Ⅱ 歴代 25章</p>	<p>「王よ、イスラエルの軍隊を同行させてはなりません…神には力があって、助けることも、挫くこともおできになります」(7-8節)。ダビデの子孫である王たちまでも軍事力に頼り始め、油注がれた王が謀反人に殺害されるようになった。かくも荒廃した世にあっても「神にできないことは何一つない」(ルカ 1:37)の信仰をもって王の前に出た神の人に希望を見る。</p>